

第3回 孔内計測ワーキンググループ会議 議事録(案)

日時: 2004年3月8日(金) 1600—1800

場所: 京都大学工学部

出席者(敬称略):

ワーキンググループ長: 篠原雅尚(東大地震研)・中村恭之(東大海洋研)

委員: 木口努(産総研)・佐柳敬造(東海大)・日野亮太(東北大)・モーキョートウー(JAMSTEC/IFREE)・山田泰広(京都大)

技術開発推進専門部会長: 木下正高(JAMSTEC/DSR)

オブザーバー: 家長将典(産総研)・川村善久(JAMSTEC/CDEX)・三ヶ田均(JAMSTEC/DSR)・荒木英一郎(JAMSTEC/DSR)・友本潤(JAMSTEC/CDEX)・遠藤立樹(シュルンベルジェ)・鎌田正博(シュルンベルジェ)

コンソーシアム担当者: 山川稔(AESTO)・斎藤実篤(JAMSTEC: IODP 部会長補佐)

欠席委員: 倉本真一(JAMSTEC/CDEX)・西将利(シュルンベルジェ)

議事内容

0. WGに先立ち孔内計測検討会が開催され、検討会の議論にWG委員も参加した。

1. 委員の変更

- 西委員から都合により委員を交代したいとの申し出があった。
- 後任の候補者を推薦してもらうよう打診した。
(付記) 遠藤氏が当面の間代理としてWGに出席することとなった。

2. Logging Staff Scientist 派遣について

- 中村WG長より、Riserless 掘削に関する Logging Staff Scientist trainee の派遣、および LDEO との sub contract についての説明があった。
- LDEO との sub contract については、2005 年夏までは日本からは 1 航海への trainee の派遣のみであることや、海洋研に替わる契約形態の準備がすぐには整わないこともあり、2005 年夏までは海洋研が引き続き sub contract を結ぶこととした。2005 年夏までに、日本国内の他の研究機関からも Logging Staff Scientist として登録できるように準備を行うことが確認された。
- LDEO より Exp 1 (Juan de Fuca Ridge) 航海への Logging Staff Scientist trainee の派遣要請があった。候補者であった山田委員、中村 WG 長とも参加が不可能なため、海洋研の辻氏を候補者として推薦したい旨提案があり、了承された。
(付記) LDEO より、辻氏を Exp 1 に trainee として乗船させる旨、通知があった(3/18)。

3. 検層データ解析システムについて

- 家長氏から、検層データ解析システムについて、検層データ解析センターのようなものを創設する必要があるのではないか、という提案があった。
- 日本ではこの分野の研究者層が薄く、検層を用いた研究の普及・育成が重要である。また、検層研究者のネットワークの構築も必要である旨が確認された。具体的な提案に関しては継続して議論することとなった。

4. 孔内計測に必要な技術開発に関する調査について

- 倉本委員から孔内計測に関する技術開発を行っている企業等のリストが提示された。
- 3rd Party ツールを使う場合は研究者負担が基本である。すべてを網羅するのは難しいが、プロポーザル提出の助けになるような、ある程度のリストは用意しておくべきであることが、木下技術開発推進専門部会長から説明された。
- このリストを充実させて WG 報告書に含めることとなった。

5. 中間報告書について

- 斎藤氏から、現在「IODP における我が国の科学計画 –掘削提案の実現に向けて (1)–」が準備されているが、孔内計測 WG としては、これに続くような形で報告書をまとめることが提案された。
- 特に、長期孔内計測に関しては、地震発生帯を念頭においた検討結果を反映させることが確認された。
- CDEX を中心に行われている孔内計測検討会の内容を参照しつつ、研究者側から見た孔内計測に関するデザインを提示する形を取るのがよい、という提案があった。
- 検層に関しては、現在までの議論内容を元に、3.で議題に上がった、検層データ解析センターに関する提案などを盛り込むことが提案された。
- 今後、執筆担当の割り振りなどを決める。